



シリーズ  
成田市

50年

開港前夜  
(昭和49～53年)



完成した4km滑走路と空港ターミナルビル(昭和49年12月撮影)

市民文化の殿堂、成田国際文化会館(昭和50年3月)



### 10年後のビジョン 成田市基本構想を公表

昭和29年、観光と農業のまちをスローガンに歩み出した成田市は、空港建設という、これまでに例を見ない大プロジェクトを前にし、

# 未来の国際文化都市の建設を目指して

急激な社会の変化と都市化によって、都市施設の不足、生活環境の悪化など、さまざまな問題を抱えていました。

昭和50年4月、再選を果たした長谷川市長は、かねてから提唱していた「うるおいのあるまちづくり」を推進するために、10年後のふるさとビジョン『成田市基本構想』を公表しました。

調和のとれた住みよいまちづくり、人間性を尊重する郷土づくり、市民生活を豊かにする都市づくりの三つを柱として、本当にこのまちに住んでよかった。これからも永く住みたいと誇れるふるさとづくりの実現に向けスタートを切ったのです。

### 福祉サービスの充実

独居老人・老人世帯を対象にスタートしたホームヘルパー制度の拡充、巡回入浴車「やすらぎ号」で65歳以上の寝たきり老人にお風呂サービスなど、すべての市民が健康で文化的な生活を送れるよう



寝たきり老人にお風呂サービス(昭和49年)

福祉の充実が図られました。

### 新たな環境施設の整備 いずみ清掃工場の建設

昭和40年代後半「ごみ戦争」という言葉が生まれるなど、ごみの収集方法や処理問題は、行政の取り組みの中でも大きな比重を占め、市では清掃問題研究委員会の設置や分別収集の徹底を推進しました。

年々増え続けるごみは、50年代に入ると1日50t。これに対応するために建設された新焼却場は、総工費16億円、1日72tのごみを無公害に焼却する近代的施設で、昭和53年3月に完成しました。



限界になった吉倉のごみ焼却場(昭和47年)



昭和47年から始められたホームヘルパー制度



現在のいずみ清掃工場

騒音対策は  
行政の最優先事項



財政援助を求める長谷川市長 昭和50年7月23日)

昭和47～48年にかけて空港建設第1期工事の主要施設はほぼ完成し、空港周辺の住民にとって一番の心配は航空機の騒音問題でした。当時、既存の空港周辺では騒音問題に関する住民運動や訴訟が相次ぐなど社会問題となっており、国や県、市でも公共施設や民家の防音対策は、山積する空港問題の中でも最重要施策でした。

市内では、騒防法に基づき騒音地区の小中学校を防音校舎にする改築工事が46年から始まり、翌年

には民家防音工事の助成などを行う対策を進める一方、空港に関する問題を早急に処理するために空港対策室を発足させました。

財政援助を強く要望

長谷川市長など地元代表は、昭和50年7月23日、首相官邸に三木武夫総理大臣を訪ね、空港建設に伴う諸施設の整備、民家の防音工事補助金、防音校舎・騒音地域の共同利用施設の建設などの騒音対策費の支出は、市の財政に大きな影響を与えているとして、国の財政援助を強く求めました。

騒音区域の決定

運輸省(現国土交通省)は、昭和51年、4km滑走路周辺地域について予測騒音「コンター」と呼ばれる「このさきの指数」を示し、第一種～三種の騒音区域の指定を行いました。市内では525戸が対象となり、この結果、第三種区域は移転補償および土地の買入れと緑地帯などの整備、第二種区域は移転補償および土地の買入れ、第一種区域は防音工事の助成を行うなど、それぞれの区域において実

施すべき対策が示されました。

しかし、航空機騒音は指定区域に限られたものではないと、騒音区域の見直しを求める陳情書が出されるなど不満は根強いものがありました。その後、53年9月には空港周辺の既存の民家に対する全室防音工事を国が行うことになりました。

目前に迫った開港

懸案となっていた暫定パイプライン工事ならびに航空機燃料を鹿島港と千葉港から鉄道によって輸送する暫定輸送問題は、昭和50～52年にかけて、国・県・関係市町村との間で安全対策などの協議がまとまり解決。また、52年2月には成田市が国と空港公団に提出した空港アクセス対策、騒音対策、財源対策など45項目にわたる要望書も大筋で合意に達し、開港ムードは一気に高まりました。

7月、市消防本部は暫定パイプラインの完成検査証を空港公団に交付し、国鉄成田駅の橋上駅舎工事や成田駅から51号線を結ぶアクセス道路建設着手など開港の諸条件が整い、政府は53年3月30日の開港を決定したのでした。



成田駅から国道51号線を結ぶアクセス道路の工事(昭和52年)

テスト飛行時の騒音測定(昭和52年)



YS11型機「ちよだ号」による管制システムのテスト飛行(昭和52年5月7日)



防音校舎第1号となった三里塚小学校(昭和46年10月)



コンクリートプレハブ防音家屋